

日本学術会議若手アカデミーとは？



- 分野横断的かつ公的な若手研究者の組織
● 45歳未満の人文・社会科学・自然科学の研究者約50名が分野を越えて結集
■ 私たちが目指すもの
● 我が国のイノベーション創出を科学・学術の立場から今後20年にわたって支えること
■ 私たちのこれまでの活動
● 人材育成、業界体質改善、越境研究展開、国際連携推進、地域活性化、イノベーション促進にわたる分科会活動
● 分野横断的かつ公的な若手研究者の組織としてのシンクタンク活動
● 日本の若手研究者8000名以上を対象とした大規模アンケートの実施
● 地域のステークホルダーやイノベーションアクセラレーターとの活動
● シチズンサイエンス（市民科学）の展開
● Global Young Academy等を通じた世界の若手研究者との連携



2040年の科学・学術と社会を見据えて

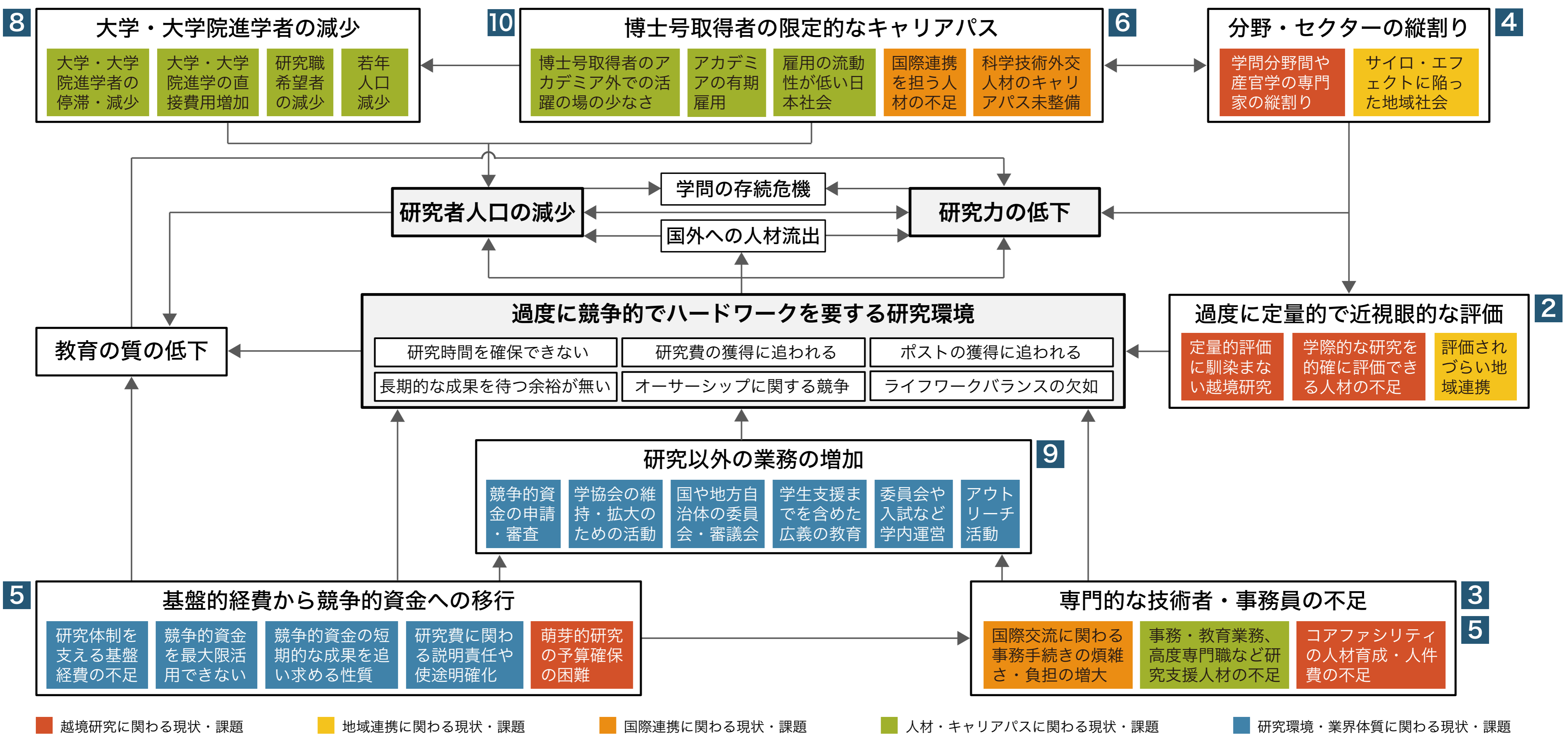
- 近い未来、65歳以上の人口が全人口の約35%に
● 労働力不足や医療・介護需要の増大、地方の過疎化、さらなる国際的な地位の低下なども確実
● 継続的な我が国からのイノベーションの創出が必須
● しかし、我が国にはイノベーション創出を阻む多数の構造的要因あり
● 環境を整えてからイノベーションが起こるには10年以上かかる
● 産官学民や分野を越えた取り組みがますます必要な「10の課題」をまとめた



イノベーション創出のために取り組みが必要な5つの領域

日本からイノベーションを創出していくために分野や垣根を越えて共に協力していきましょう！

イノベーション創出を阻む構造的問題



イノベーション創出のためにいま取り組むべき10の課題

- 1 基盤的・伝統的分野における知識や技術の蓄積
2 越境研究や地域連携に対する評価や支援の拡充
3 博士号取得者を擁するコアファシリティの拡充
4 セクターを越えた共創プラットフォームの整備
5 競争的資金を活用するための基盤的経費の拡充と研究支援人材の増強
6 科学技術外交に関わるキャリアパスの整備
7 過度な経営的視点や失敗を許さない前例踏襲主義からの脱却
8 教育費の家計負担の低減
9 アカデミア自身の“業界体質”の改善
10 博士号取得者のセクターを越えた活用とジョブ型雇用の推進